

令和3年度 地区会報告

【北海道地区会】

第1回 日本教育大学全国美術部門 北海道地区総会 議事録

今年度の地区総会は、コロナ禍の影響を考慮して書面会議として開催した。

日時

令和3年9月1日
～9月7日

参加者

札幌校：花輪、牧野、李
旭川校：岩永、大石、南部
八重樫

釧路校：佐々木、富田、福
江

函館校：橋本

岩見沢：阿部、伊藤、大西
倉重、坂巻、佐々
木、末次、羽子田、
船岳、前田、三浦、
三橋、山内、竹田
(敬称略)

協議事項

1. 令和5年度以降の地区全国委員・地区全国理事について

下の表の通り、令和5～6年度の地区全国委員・地区全国理事について、伊藤先生(岩見沢校)、が担当することが提案され了承された。

| 年度 | 地区全国委員・地区全国理事 |
|-----|-----------------|
| R 2 | 竹田(岩見沢) 福江(釧路) |
| R 3 | 佐々木(岩見沢) 福江(釧路) |
| R 4 | 佐々木(岩見沢) 李(札幌) |
| R 5 | 伊藤(岩見沢) 李(札幌) |
| R 6 | 伊藤(岩見沢) |

報告

理事会から連絡があった以下の事項について周知された。

・登録メールアドレス確認のお願い

諸案内をメールにて送っているが、届かないケースがあるため、会員情報のメールアドレスを確認いただき、変更がある場合にはメールアドレスの更新をお願いしたい。

変更は、それぞれのホームページから行うことができる。

その他

・令和4年度の学会開催予定について

来年度の大会は、九州ブロック宮崎大学で開催の予定である。なお、開催の形態(オンラインまたは対面)については未定である旨が伝えられた。

・各校から

進路・就職活動の様子、コロナの感染拡大防止対策、その他についての情報交換が資料に基づいてなされた。

作成者：北海道教育大学釧路校 福江良純

【東北地区会】

日時

令和3年6月19日(土)
9時～12時

場所

オンライン会議
(zoom, 担当校・弘前大学)

参加者 全10名

弘前大学：佐藤光輝、塚本
悦雄、富田晃

秋田大学：長瀬達也

岩手大学：平野英史

宮城教育大学：虎尾裕

山形大学：小林俊介、降旗
孝、土井敬真

福島大学：新井浩、渡邊
一。

■協議事項

1. 第60回大学美術教育学会「山形大会」の開催

山形大学の小林先生から今年度の学会運営に関して説明があった。基本的に対面での開催は行わず、前日の諸会議・シンポジウム・研究発表などはオンライン(zoom, YouTubeなど)開催となる。そのため、東北地区会から司会者を出す予定となっていた分科会の開催もなく、参加費の徴収も行わない。

2. 教員人事

蝦名敦子(弘前大学)、石川善朗(弘前大学)、浅野治志(宮城教育大学)が昨年度で退職した。新任者は各大学でいなかった。

■報告事項

1. 東北地区全国委員の選出、新規入退会の取りまとめ

2021年度および2022年度の東北地区全国委員は虎尾裕(宮城教育大学)が選出され、来年度選出の2022年度および2023年度の全国委員は福島大学からの選出となることが確認された。

■その他

1. 各大学の学部・大学院の入試状況および卒業生・修了生の進路情報

各大学の学部・大学院における入学志願者の状況や入試の動向(地域枠など)などが情報共有されて今後の展望などが話された。また、各大学における教員採用試験への取り組みや採用数などの就職動向に関する意見交換が行われた。教職大学院については、定員充足の問題と現職教員中心の現状についての話題が出た。

2. 教員採用試験におけるインセンティブの設定

現行の制度下では国語・数学・社会・理科・英語中心のインセンティブが多くなっており、技能教科は補助的な位置にあるという意見が出され、この問題が教員養成課程構成上の問題点になっているということが話された。

3. 地域との連携について

美術館における鑑賞教育や展示方法の学習など、地域との連携に基づいた実践について各大学から事例が発表された。

4. 小学校教員養成課程に所属する学生について

美術科の教員免許を取得する小学校教員養成課程に所属する学生について、専門的な技能の習得が困難な状況があるという意見が出された。

作成者：岩手大学 平野英史

【関東地区会】

日時

令和3年7月18日(日)
13:45～15:00

場所

オンライン会議
(zoom、主催：千葉大学)

出席者 全29名

東京学芸大学：清野泰行、西村德行、石井壽郎、鉄矢悦朗、朝野浩行
横浜国立大学：渡辺邦夫、河内啓成、
茨城大学：島田裕之、向野康江
宇都宮大学：株田昌彦、松島さくら子、梶原良成
群馬大学：喜多村徹雄、郡司明子
山梨大学：栗田真司、村松俊夫、武末裕子
埼玉大学：小澤基弘、内田裕子、高須賀昌志、石上城行
筑波大学：直江俊雄、仏山輝美
千葉大学：小橋暁子、宮崎甲、後藤雅宣、加藤修、神野真吾、佐藤真帆

■地区総会

- ・地区会長あいさつ(神野)
- ・日程説明(小橋)
- ・議長団選出 議長(神野) 副議長(向野)
- 1. 前年度議事録の確認 別紙をもとに確認された。
- 2. 令和2年度関東地区会収支決算報告(横浜国立大学)
- 3. 令和2年度関東地区会会計監査報告(東京学芸大学) 承認
- 4. 令和3年度・4年度全国美術部門地区全国委員選出
R3年・R4年度 向野康江(茨城大学)、神野真吾(千葉大学)
- 5. 令和3年度・4年度大学美術教育学会地区全国理事選出
R3年・R4年度 向野康江(茨城大学)、神野真吾(千葉大学)。
- 6. 令和4年度地区総会・協議会の開催について 当番大学(茨城大学) 確認
- 7. 令和3年度会計大学、監査大学について 会計大学(千葉大学)、監査大学(横浜国立大学)
- 8. その他 なし

■協議会

1. 承合事項

各承合事項について大学間で承合。項目は次の通り。

教職大学院の現状及び問題点、COVID-19の流行に伴う対応/授業について、教員採用試験と卒業生の進路、入試状況、大学の組織・体制、カリキュラムについて

2. 協議事項

- 1) R3年度、教大協関東地区会への補助金を申請の要無、また申請する場合の補助金の用途について議論し、『美術教育の理論と実践第2号』刊行費補助とそれに付随する活動費として申請をすることとした。
- 2) 『美術教育の理論と実践第2号』の発刊について【山梨大学・栗田】

上記の補助金とも関連するが山梨大学より2018年3月に発刊した『美術教育の理論と実践』の第2号の発刊提案され、承認された。年度内に刊行するため編集委員会を構成する。

3. その他

- ・地区会開催場所について【千葉大学・後藤】各大学を会場とせず、集まりやすい会議場などを利用する提案があり、コロナ感染拡大の状況が収まる時期を見計らいつつ、継続して議論をしていくことが確認された。

作成者：千葉大学 神野真吾

【北陸地区会】

日時

令和3年6月30日(水)
13:00～15:00

場所

Zoomでの遠隔会議

出席者 全21名(敬称略)

金沢大学：大村雅章、江藤望、池上貴之
新潟大学：三村友子、橋本学、佐藤哲夫、柳沼宏寿
富山大学：上山輝、鼓みどり、隅敦
福井大学：湊七雄、坂本太郎
上越教育大学：伊藤将和、洞谷亜里佐、松尾大介、安部泰、

■協議事項

- 1. 令和3年度事業計画と会計予算
- 2. 年会費について
- 3. 大学改革の今後について
- 4. 承合事項と協議事項で扱う内容について(両事項の違いを明確にし、審議すべき事項を十分に協議したいため)
- 5. 今後の協議会の在り方について(遠隔での会議開催等を含めて)

■報告事項

- 1. 日本教育大学協会美術部門委員会報告
- 2. 大学美術教育学会理事会報告
- 3. 令和2年度事業報告と会計報告

■承合事項(各事項を6大学間で確認)

- 1. コロナ禍におけるオンライン授業について
- ・コロナ禍における美術科の講義形態につい

て(工夫など)

- ・今コロナ禍でICT教具やオンライン活用での美術科教育の在り方が教育現場でも急激に変容しているところですが、各大学での実際の授業デザインや実技等の講義・実技指導ではどのように対応されていますか。また、具体的なものがあれば教えていただきたいところです。

・遠隔授業(Zoom等)になった場合の作品制作課題の実施について

・実技科目のオンライン授業の内容や方法について

・今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、実技科目もオンライン授業が求められる事が想定されます。他大学での実施状況と方法についてご教示願いたい。

・オンライン授業の功罪について

2. GIGA スクール

兪期天、五十嵐
史帆
信州大学：猪瀬昌延、岡田
匡史、大島賢一

・ギガスクールに対応した教育への取り組み
・GIGA スクール構想の実現に向け、各自治
体で ICT の環境整備が進められています。地
域の学校教員らの支援が求められていますが、
具体的な動きはありますか。特徴的な取り組
みなど情報共有をお願いします。

3. 大学改革

・大学改革における教育学部や美術科の現状

4. 入試

・各大学の受験者数を増やす取り組みは？そ
のための広報活動は？

■その他

1. 大学美術教育学会全国大会（北陸地区）の
次回当番大学
2. 令和4年度北陸地区美術部門研究協議会当
番大学

■継続審議

日時：令和3年7月19日（月）
～9月15日（水）

メール審議

出席者：全6名

1. 規程改正（案）文書について

作成者：上越教育大学 松尾大介

【東海地区会】

日時

令和3年9月12日（日）
10:00～12:00

場所

Zoomによる遠隔会議

出席者 全23名

静岡大学7名：大宮康男、
伊藤文彦、芳賀正
之、高橋智子、川
原崎知洋、名倉達
了、占部史人

愛知教育大学8名：遠藤透、
松本昭彦、富山祥
瑞、鷹巣純、佐々
木雅浩、永江智尚、
杉林英彦、井戸真
伸

三重大学4名：山田康彦、
岡田博明、関 俊
一、奥田真澄

岐阜大学4名：河西栄二、
野村幸弘、山本政
幸、隼瀬大輔

■協議事項

1. 令和3年度部門・学会地区委員について

令和2・3年度担当委員の関俊一氏（三重
大学）の継続、令和3・4年度担当委員とし
て杉林英彦氏（愛知教育大学）の選出、およ
び令和4・5年度担当委員の野村幸宏氏（岐
阜大学）の予定を確認した。令和3年度事務
代表として幹事校の伊藤文彦（静岡大学）が
担当することとなった。

2. 次年度（令和4年度）開催地について

令和4年度東海地区会開催校は、地区内
でのローテーション（三重大学→岐阜大学→静
岡大学→愛知教育大学）にもとづき、愛知教
育大学に決定した。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、 情報共有など）

1. 各大学の新型コロナウイルス感染対策と講 座における授業実施の状況について

新型コロナウイルス感染症対策にともなう、
今年度前期の各大学での授業の実施状況や後
期の見通しが報告された。各大学におけるワ
クチンの職域接種状況、Zoom等による遠隔
授業や実技科目の取り組みについて、様々な
報告が行われた。また、後期に向けての授業
方針について、各大学の対策方針が報告され
るとともに、教室の収容人数の調整や、対面
授業と遠隔授業を併用する授業方法について
も意見交換が行われた。さらに、各大学にお
ける教育実習の実施状況についても報告があ
り、静岡大学の一部の実習を除いては、感染
対策を徹底した上で実施予定であることが報
告された。

2. 志願者数の動向（入試情報）について

各大学の学部・大学院における入学志願者
数の動向と入試の変更点等が報告され、推薦
入試の状況や小論文の導入などについて意見
交換が行われた。中でも、静岡大学の後期入
試における実技科目廃止と小論文の導入につ
いては質疑が集中し、今後の動向やその影響
について注視していくことが確認された。

3. 卒業生・修了生の動向（進路情報）につ いて

各大学の令和2年度（過去3年間の動向も
含め）卒業・修了生の進路状況について報告
された。教職、公務員、一般企業、進学など
の進路割合については、ほぼ例年並の傾向で
あった。教職希望がやや増加しつつある大学
もあったが、教職大学院への進学については、
まだ僅かである状況が報告された。

4. 各大学学部・大学院における改革・改組等 の状況について

各大学における組織改革の状況が報告され
た。学部の教員養成課程の改組・再編にとも
なう定員の増減、さらに新たに始まった教職
大学院の取り組み状況について報告があった。
教職大学院においては、美術教育分野を志望
する院生数の伸び悩み、美術の専門科目の設
置状況などについて種々意見交換が行われた。

■その他

1. 昨年度の卒業制作展の開催状況及び今年度 の計画等

昨年度の卒業制作展は、静岡大学だけが
Webのみによる開催となり、その具体的内容
やメリット・デメリットについて報告があっ
た。今年度は4大学とも新型コロナウイルス
感染対策をした上で、リアルな会場での開催

が予定されているとの報告があった。

2. 全国大会（山形）のご案内

全国美術部門総務局長の芳賀正之氏（静岡大学）より、第60回大学美術教育学会 山形大会（Zoom開催）の案内があった。

3. その他

今年度をもって定年退職により退会される大宮康男氏（静岡大学）、富山祥瑞氏（愛知教育大学）より退会の挨拶があった。

作成者：静岡大学 伊藤文彦

【近畿地区会】

日時

令和3年（2021年）
6月5日（土）
10：00～12：30

場所

リモート会議（zoom）

出席者（敬称略）

大阪教育大学：谷村さくら、
寺島みどり
奈良教育大学：原山健一
兵庫教育大学：前芝武史
神戸大学：勅使河原君江
京都教育大学：丹下裕史、
日野陽子
滋賀大学：藤田昌宏
和歌山大学：寺川剛央、永
沼理善

報告・協議事項

1. 会員数、入退会者の確認

退会者：大阪教育大学（1／退職）
会員数：大阪教育大学（10）、奈良教育大学（6）、
兵庫教育大学（7）、神戸大学（2）、滋賀大学
（4）、京都教育大学（5）、和歌山大学（2）

2. 全国大会の報告と案内

昨年度（宇都宮大会／リモート会議）の報告：
京都教育大学（日野）
今年度（山形大会）の日程・会議形態（オン
ライン）などの案内：滋賀大学（藤田）

3. 令和3年度以降の地区理事の確認

2020－2021年度：滋賀大学（藤田）／
2021－2022年度：和歌山大学（永沼）／
（2022－2023年度：大阪教育大学／以降：奈
良教育大学→兵庫教育大学→京都教育大学→
滋賀大学の輪番）

4. 地区会の会計事務について

担当大学や引き継ぎ状況などの確認のため
情報交換。地区会後改めて事務方に確認の上、
各大学へ報告・共有することとなった。（後日、

状況の確認、整理、報告済み）

5. 各大学からの状況報告

各大学より資料をもとにコロナ禍での各大学
の苦労・工夫の共有、所属学生の動向、大
学の動向、などの報告と情報交換が行われた。

○コロナ禍での苦労・工夫

当該及び近隣府県への緊急事態宣言発出に伴
う各大学の授業のオンライン化などの対応状
況とともに、実技科目におけるオンラインで
の制作指導の難しさや、材料・用具の配布や
指導の際の工夫、対面授業実施の際の感染防
止対策、学生の海外研修プログラムへの影響、
卒業制作展のWeb開催などが報告された。

○所属学生の動向

各大学の学生・院生の在籍状況や教員採用（就
職）状況などについて報告された。

○各大学の動向の報告

共通して教職大学院への移行状況や定員充足
に苦慮している様子、大学の法人統合や新大
学院の始動、退職者等の後任補充が進まない
状況、予算配分への危惧などが報告された。

作成者：和歌山大学 永沼理善

【四国地区会】

日時

令和3年6月24日（木）
17：00～18：30

場所

Zoomによる
オンライン会議

出席者 全4名

鳴門教育大学：山田芳明
愛媛大学：福井一真
高知大学：金子直正
香川大学：吉川暢子

■協議事項

1. 令和3年度部門・学会地区委員について

令和3年度の四国地区全国理事として、香
川大学：吉川暢子（令和2－3年）、愛媛大学：
福井一真（令和3－4年）にお願いすること
となり、了承された。

2. 各大学の構成について

各大学の美術部門所属教員の構成について
情報交換を行った。構成員の変更はないこと
が報告された。

3. 会計の引き継ぎ

（1）令和2年度会計担当の山田（鳴門教育大
学）から、令和3年度会計担当の吉川（香川
大学）への引き継ぎが確認された。
（2）令和3年度支部会費納入について確認を
行った。

なお、今回はオンラインにより会議を行っ
た関係で、会計関係書類及び各大学の会費は、
会議に先立って各大学、各担当より令和3年
度会計担当者の吉川（香川大学）宛に事前に
現金書留等により送付された。その際の送料
について検討された。今後も対面ではなく、
オンラインでの四国地区会の開催となった場
合、送料を差し引いた形での会費を払うなど
の提案がされた。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、 情報共有など）

1. コロナ禍における各大学の授業対応

コロナ禍における授業の対応などについて
各大学から状況報告

高知：オンライン実施、鳴門教育大学、愛

媛大学、香川大学：対面（一部、オンラインと併用あり）

2. ワクチンの接種（職域接種）について

各大学の学生・教職員のワクチン接種について、各大学から状況報告。

高知大学：未定、愛媛大学：接種に関するアンケートを実施した上で、附属病院にて接種、鳴門教育大学：徳島大学にて接種、香川大学：学内で接種。

■その他

1. 第62回大学美術教育学会の開催について

第62回大学美術教育学会は香川で開催されることが確認された。四国地区内で協力して行うことが確認された。また、それに伴う学会の打ち合わせ等に関わる移動（旅費）について、四国地区会の予算を使用するかについて協議された。

2. 四国地区会の会費・書類の受け渡しについて

今後、オンラインでの四国地区会の開催となった場合の会費や書類の受け渡しについて協議された。

作成者：香川大学 吉川暢子

【中国地区会】

日時

2021年6月5日（土）
13:00～15:30

開催担当

岡山大学

開催方式

web会議システム：Zoom

出席者

山口大学：中野良寿・平川和明・吉田貴富
広島大学：池田史志・井戸川豊・多田羅多起子
島根大学：有田洋子・藤田英樹
岡山大学：赤木里香子・大橋功・清田哲男・河本昭政・山本和史（司会進行）

【1】研究会（13:10～13:40）

岡山大学：清田哲男先生より、岡山大学においてクリエイティブ・エデュケーター（CE教員）育成を目指す、複数教科連携でCER・Lab（クリラボ：リエイティブラボラトリー）が創設され、初回フォーラムの様子と今後の研究連携について報告があった。

【2】地区理事交代挨拶

前理事 2019-2020年度：井戸川豊（広島大学）
継続理事 2020-2021年度：山本和史（岡山大学）
新理事 2021-2022年度：藤田英樹（島根大学）

【3】総会（13:50～15:30）

1. 報告

(1) 理事会報告 山本和史（岡山大学）
(2) 2020年度会計報告 平川和明（山口大学）
メール回覧による全員監査が確認され、承認された。

2. 協議

(1) 教大協研究会等補助金について 山本和史（岡山大学）

原案：総会当番校の判断に一任する案が提示され、承認された。

今後の補助金申請に関し、Web会議システムの経費や担当校の開催状況を鑑み、申し合わせ記載を次年度検討することとした。

(2) 2021年度以降の会計のあり方について

一昨年度から山口大学が管理して来たが（2019-2020）、地区会規程通り輪番で担当大学へ会計を回すこととなった（2021岡山大学）。受け渡し方、管理方法について、情報交換しつつ各大学で検討することとした。

4. 次期定例総会当番大学挨拶

島根大学：藤田英樹（2021-2022年度理事）

作成者：岡山大学 山本和史

【九州地区会】

日時

令和3年7月8日（木）
14:30～17:40
（途中休憩10分程度）

場所

オンライン会議

出席者 全13名

佐賀大学：栗山裕至、和田学
長崎大学：兼原啓二
熊本大学：梅田素博、喜久山悟、松永拓己

■協議議題

1. 今後の免許制度のあり方について（福岡教育大学）

教員数の削減や改組等により、これまで教育学部で取得できていた免許種の維持が困難な状況にある。一方で幼小連携、小中連携（一貫教育）、中高連携といった地域ごとの学校種をつなぐ仕組みのニーズは高まっており、小学校に専科制度を敷く動きも具体化しつつある。

協議会では、承合事項（1）～（4）の各大学の現状を把握したうえで、今後の免許制度のあり方について、承合事項（5）、（6）

の内容を中心に協議し、情報の共有と大学間の連携意識の深化を図った。

■承合事項

1. 各大学の教員数や専門領域と学生が取得可能な免許種について【書面】（福岡教育大学）

各大学型事前に提出された資料を基に、教員数や専門領域、学生が取得可能な免許種について確認した。

人員削減が著しいなか、複数の専門領域を担当することで取得できる免許種を減らさない工夫がみられたが、教員の負担が大きくな

大分大学：廣瀬剛、藤井康子、村上佑介
宮崎大学：幸秀樹、大野匠、大泉佳広、樺島優子
鹿児島大学：小江和樹、桶田洋明
琉球大学：亀井洋一郎
福岡教育大学：篠原利朗、宮田洋平、千本木直行、松久公嗣、笹原浩仁、本田代志子、加藤隆之

ることや学生に提供できる専門的な内容が薄まることへの懸念が示された。

2. 教育学部教員補充の現状と、採用が行えない場合の課程認定への対応について【当日口頭】（鹿児島大学）

人件費の削減のため教員補充が難しいという現状があるなか、課程認定に必要な教員数の確保も難しくなっている。このような状況を踏まえ各校では課程認定に対しどのような対策を取っているのか、各大学の現状を確認しつつ意見交換した。

大学の方針によっても異なるが、福岡教育大学のように過程認定に必要な最低限の教員数は確保する方向で採用人事が進められている大学もある。教員の必要性和複数の専門性を有する人材の採用など、2つの側面から対応策を講じる必要があることが確認できた。

3. 退職教員の後任人事の状況（常勤・特任・非常勤など）について【書面】（鹿児島大学）

学科内で退職教員が出た際の後任人事の状況を確認した。常勤・非常勤などの勤務形態に加え、講師や助教など職階についても同様に情報交換した。

後任補充が進まない中で、非常勤講師による授業担当が多くなっている。また、他の専任教員が最低限の必修科目を担当する事態もあり、教員の業績等、過程認定上の問題点も出てくることが懸念される。

4. 幼稚園教諭免許の取得に関わる新規開講科目（現在本学は、文科省課程認定申請にむけて準備中です）の中で、造形表現関連の科目がありましたら、担当の方と内容について教えて頂きたい。【当日口頭】（佐賀大学）

幼稚園教諭免許の教職課程について、『領域に関する専門的事項』に開設する授業科目は、施行規則第2条第1項表備考第1号に規定する健康、人間関係、環境、言葉、表現の領域のうち、一種免許上の課程認定を受ける場合は5領域、二種免許上の課程認定を受ける場合は4領域以上の科目ごとに授業科目が開設されなければならない」とある。また、免許法改正に伴い、小学校の教科に関する科目と幼稚園の領域に関する科目の共通開設（例：小学図画、小学工作）ができなくなり、

新規開講が必要となってきた。

人員削減などから、専門とする常勤教員の配置が困難かと思われるが、各大学でどのような担当体制と授業内容を設定しているのか情報交換し意見を交わした。

5. 小中一貫教育や小学校専科教育の導入を見据えた各大学の免許制度の方向性【当日口頭】（福岡教育大学）

文科省は小学校専科教育の方向性を打ち出し始めており、各大学でも複数の学校種の免許を取得できるカリキュラムの整備が必須となってくる。学校現場や教育委員会からの要望に応えることのできるカリキュラムの改善あるいは現有制度の維持が求められるだろう。

6. 地域で免許を取得できるようにする大学間連携の現状と今後の予定【当日口頭】（福岡教育大学）

全国的にみると四国の5大学が地域ネットワークを立ち上げて大学間の連携で単位を取得するカリキュラムが令和5年度開設に向けて動き出している。

九州ではこのような方策は現在のところ検討されていないが、人員の削減によって学生が取得できる免許種が削減されるなどする場合は、他大学との連携を検討せざるを得ないだろう。しかし、現在も制度として大学間連携による単位取得が可能な科目があるが、取得に係る開講期や評価の問題等が多くあるので、遠隔授業の拡大や開講期、授業時間帯などの問題解決が重要となるだろう。

7. 附属校園における図画工作科、美術科担当教員との通常授業、教育実習等に関する情報共有の在り方について【当日口頭】（大分大学）

附属校園との連絡や連携を円滑に行うための取り組み事例について、各大学から情報を提供してもらい参考とした。

附属校園の立地場所やそれぞれの担当教員の数にも左右されるが、LINEグループを構成して連絡を密にするなど工夫して進めている大学もあった。

8. 第4期中期目標・中期計画に向けて、その取り組み方や方針についてご教示いただきたい。【当日口頭】（宮崎大学）

① 各大学の学部における重点研究領域の研究

テーマやキーワードについて

② 美術教育講座として関わっている研究について

Society5.0における新しい教育のあり方や、特別支援教育の充実など、文科省の方針や各大学の状況に即したキーワードと、それらに関する研究事例が紹介された。今後はGIGAスクール構想やSTEM教育関連、SDGs関連など、現代的なキーワードに沿った研究開発も予測できる。

9. オープンキャンパス等、美術教育を目指す学生を獲得するための工夫について【当日口頭】(琉球大学)

近年、琉球大学での志願倍率は2倍を下回る状況が続いており、高等学校で芸術科目として美術を選択しない高校生も増えているように感じられる。学校現場で美術科専任教員が少ない現状もあわせ、今後の受験数の推移についても危惧される。このような状況の中、美術教育に意欲的な学生を獲得するために工夫している例について情報を交換し、各大学の参考とした。

10. 初等コースからの美術科への所属の状況、ガイダンスの工夫などについて【書面】(鹿児島大学)

鹿児島大学では昨年度より中等のみの入試となり、初等以外の学科との一括りの入試に

合流する形になった。昨年度は初等から美術科へ所属した学生が少なく学生の獲得に苦戦している状況であり、他大学ではどのような工夫をしているのか情報を交換した。

各大学の初等学生の美術希望者は若干名となっているが、福岡教育大学では全教科・領域中、「教育学」の115人に次ぐ2番目の多さで、30～40名を受け入れていることが報告された。

その他

・大学美術教育学会全国大会がオンラインで実施されることが報告された。

これに伴い、昨年と同様に二部会費用として徴収していた3,000円が必要なくなるので、徴収をしないことが了承された。

次期当番校
佐賀大学

これまでは慣例として協議の前半を当番大学、後半を次期当番大学が担当していたが、人員削減も著しいなか、大学が連携して分担していくことを確認した。

宮崎大学が会場となる全国大会についても、対面・オンラインによって開催方法も異なるが、対面での実施の場合は九州の各大学に司会等の協力を呼び掛ける予定である。

作成者：福岡教育大学 松久公嗣